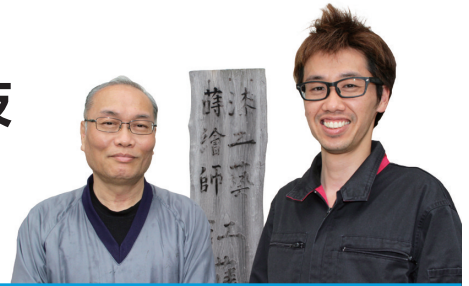


姫路商工会議所には様々な業種や規模の事業所が加入されています。そのなかで、当所経営指導員が出会った「キラッ」と光る事業所の取り組みをご紹介します!

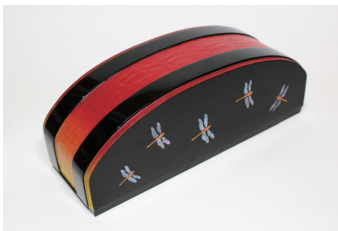


悠久の時を経て引き継がれる 奥ゆかしい漆工芸と精巧な蒔絵の技 ～漆の新たな可能性を探りながら～

江藤漆工房 江藤 國雄氏・雄造氏



國雄氏作 積層螺鈿蒔絵箱「春の音色」



雄造氏作 積層螺鈿蒔絵箱「夕」



雄造氏作「藍胎のスマホケース」



雄造氏作 乾漆椀「TUTUMU」

つややかな光沢が美しい漆の箱。竹ひごを組み上げたり、麻布を何層にも重ねたりして形をつくり、その上に漆を塗り重ねる。さらに金や銀の粉を蒔き、絵柄や文様を描く。また、夜光貝や白蝶貝などを埋め込み、螺鈿を施す。出来あがった作品の、その堂々とした佇まいに職人の技と精神を感じる。

現在に至るまで

江藤國雄氏は、20歳を過ぎた頃に石川県羽咋市の蒔絵師の元で漆工芸の技術を習得。寺社仏閣の漆塗りや彩色、文化財の修復工事や漆工修理などを行いながら自身の作品づくりを行っている。現在は、子息の雄造氏とともにさらに精を出す。

雄造氏は、父から「継いでほしい」と言われたことはなかったが、一代で漆工芸職人の道を究めた父の背中を見て、自ずと漆工芸の世界へ進むことを志すようになっていた。高校卒業後から各地の作家の元で、竹ひごを素地とした「藍胎」や、麻布を素地とした「乾漆」など、様々な技法を学んできた。

漆の新しい可能性を探る

雄造氏は、伝統の技術を継承する一方で、漆の新たな可能性を探りながら自身の作品づくりにも邁進している。新しい感性を取り入れるために、様々な職業にスポットを当てた媒体を観たり、異業種との交流などに参加している。その結果として、スマホケースやボールペンなど、現代のライフスタイルに溶け込みながら、より身近に漆に接していただくことができる作品を編み出した。

人々に触れてもらう機会を創出

また、ブログの更新やFacebook、Twitter、InstagramといったSNSツールに作品をアップするなど、情報を発信している。

知って、見て、使って良さを感じてもらいたい、という職人の心の現れである。

他には、姫路市内のカフェや美術館などと連携して金継ぎ教室も開催している。割れてしまった愛着のある陶器を、漆と金を使って修復するワークショップは人気で、あっという間に席が埋まってしまう。このワークショップを通して漆の魅力を発信し、また自身の魅力も多くの方に伝えていく。

今後の展望

雄造氏は、「今後も、漆工芸の修復作業や文化財修復などで必要とされる存在であり続けていきたいです。また一方で、伝統を引き継いだ者として漆工芸の魅力を伝えていくことにも尽力していきます。例えば、漆を知らない人々でも興味を持ってくださるような印象的な作品をつくったり、ワークショップのように実際に体験ができる機会を設けて記憶に残るような活動を行ったり。自分自身の個性を活かして、伝統をもっと身近に感じることができるとしていただけたらと考えています。」と語った。

漆の幅広い世界が堪能できる作品展情報

6月3日(土)～7月17日(月・祝)

「播磨に息づく匠の技」

場所 姫路市書写の里・美術芸館

8月23日(水)～11月19日(日)

「漆・金継ぎ 一漆芸家 江藤雄造作品展」

場所 三木美術館

DATA

事業内容：蒔絵、寺社仏閣の修復、漆工修理、彩色、金継ぎ、講師

所在地：〒670-0824 姫路市京町1-24

電話：079-288-0693 FAX：079-288-0693

URL：http://eto-urushi-kougei-lab.jp/

Facebook：[Eto Urushi Kougei Lab.]

Twitter：[EtoUrushiKougeiLab.]

Instagram：[eto.urushi.kougei.lab]